

同人音楽よ、XVIDEOS と乱交せよ

「XVIDEOS を中心に活動するギタリスト」や「XVIDEOS コンピアルバム」の存在をご存知でしょうか？両方一応実在します。バカかと思うでしょうが、ここには同人音楽文化の未来図があるかもしれないと僕は思います。そのあたりについて、音楽文化史を踏まえてご説明しましょう。

音楽文化の歴史は、音楽メディアの歴史でもありました。音楽メディアは手書きの楽譜から始まり、やがて音そのものの録音再生が可能となり、レコード盤の流通は産業としての音楽に革命をもたらし、21 世紀以降のデジタルオーディオは音楽文化から時空間の概念を取り払ってしまいました。

また、元来は音楽を楽しむツールではなかった蓄音機とレコードのように非音楽メディアが音楽化したり、ターンテーブルやギターアンプのように楽器とメディアの両義性を持つものも存在します。

このように音楽メディアは単に音楽を再生するに留まらず、音楽文化を上書きしてきました。そしてそれはメディアをハックもしくはファックすることで成立してきたとも表現できます。

前置きが長くなりましたが、ここで質問。「世界最高のコンテンツ配信メディアといえは何でしょう？」ハイ、当然 XVIDEOS ですね。そして先述の歴史を踏まえると、この XVIDEOS をファックすれば何か革新が起きる可能性が極めて高いといえます。そしてそれができるのは同人音楽だけのはずです。

今までの同人音楽のメディアはどうだったかといえばフィジカルメディア（具体的には CD とそのパッケージ）にこだわる作家が多いように見受けられ、少なくとも一般的なミュージシャンと比べるとmyspace や soundcloud など新興音楽メディアを軸とした活動は遅れ気味でした。しかし、ニコニコ動画では活発に同人音楽活動がなされています。ここで興味深いのは、ニコニコ動画は音楽専用サービスではない仕様を持つがゆえに音楽の創造性を高めてしまったことです（タグやコメントやレコメンデーションの問題です）。非音楽メディアの音楽化がもたらした産物の好例と言えるでしょう。



とはいえこの絵面の世界に飛び込むのは勇気がいる気がしますね。それといくら出しぬこうって言ってもアンダー18はダメですよ(タチやん)

同人音楽は音楽メディアに乗り遅れている、だからこそ、非音楽メディアと交わり革新的音楽を生み出す可能性が高いのかもしれない。ならば我々が考えるべきことは soundcloud のディグり方ではなく、XVIDEOS でのオナリ方でしょう。さあ、連中を出しぬこうじゃないか。

文責：あおいん

(2016 年春M3 サークルスペース コ-37a)